

令和5年度愛知県栄養教諭研修会及び総会

令和5年5月24日（水）刈谷市産業振興センター 小ホールにて開催され、講演及び総会式典が行われました。

講演

演題「これからの栄養教諭の在り方」

講師 愛知県教育委員会保健体育課 指導主事 小田敦子氏



栄養教諭が学校における教諭と、管理栄養士・栄養士としての両方の役割を果たすために、どのような学びが必要であるかを具体的に示してくださいました。

まずは、文部科学省や愛知県から出されたマニュアルを、しっかりと理解してから仕事に臨むこと、栄養教諭同士のつながりや他の教員との関わりを増やして情報交換していくことをご教示くださいました。そして、学

校における食育を推進するための下になる、食に関する指導の全体計画①②を十分に活用すること、児童生徒の実態と食育の評価がずれていないかをきちんと確認し、PDCA サイクルに基づいて進めていくことが重要であることをご教示くださいました。栄養教諭は、「食に関する指導」と「学校給食の管理」の両輪をバランスよく回していくことが大切であり、「栄養教諭とは」という問いに、自分の言葉で語れるようになってほしいというお言葉をいただきました。

講演の冒頭に先生に問いかけられた「栄養教諭がいることで、子どもたちはどうよくなるのか」を常に考え、子どもたちのために学び、向上し続ける栄養教諭でありたいと思います。

【ご講演を拝聴しての感想】

栄養教諭として必要な知識をもって仕事にのぞむために、さまざまな資料や手引きをしっかりと読み込み、学校内外での研修会を活用して、資質向上に努めたいと思いました。また、積極的に学校に出向くことも大切だと感じました。給食センターを兼務していることから、単独校勤務の栄養教諭と比べ、子どもたちと少し距離のある教員になってしまっています。これを言い訳にせず、担任や子どもたちに栄養教諭の存在を認識してもらい、子どもたちに寄り添える栄養教諭でありたいです。

子どもたちだけでなく、他の教諭からも必要だと思われる栄養教諭になるために、常に自らを高めていかなければならないと感じました。愛知県等から出ているマニュアルを読むだけでなく、動画教材を活用したり、日本（愛知県）栄養士会、愛知県栄養教諭研究協議会が主催する研修会や学会へ参加したりするなど、栄養教諭同士の横のつながり、他の教員との関わりを大切にしながら、自己研鑽に励みたいと思います。

小田先生がひとつひとつ質問を投げかけながら進めてくださった事で、自ら考え、気付き、主体的に学ぶことができました。隣の人と意見交換を行う中で、自分と異なった視点の意見を聞くことができ、より考えを深めることができました。自分の考えを人に上手く伝えられるほど理解や整理ができていないことに気付くことができました。日頃から「主体的、対話的な学び」と言われていますが、自ら体感することで、このような学びの効果を感じることができました。

総会式典

愛知県教育委員会保健体育課 課長補佐 春田直之様にお越しいただき、ご祝辞を頂戴いたしました。

